

保育園自己評価表

2019年度

園名 まあむベビーズ中央林間

保育目標の達成	職員間の連携	地域とのコミュニケーション
<p>【目標】 ○混合保育の利点を活かし、異年齢児の子どもが関わりを持つ中から「思いやり」の心を育てる ☆健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を整え、一人ひとりの発達過程に応じて乳幼児期に相応しい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育する ●連絡を密に取ることで保護者との信頼関係を築きながら保護者を理解し適切に援助する</p> <p>【達成度】 ○日々の生活の中で2歳児が自発的に年下の面倒をみていた。自分が作ったブロックを欲しがると同じものを作って渡してあげたり、0歳児の好きなおもちゃや絵本を取ってあげたり、「いないいないばあ」など喜ぶことを進んでする姿がよく見られた。同じ空間で過ごす中で「思いやり」の心が自然と育まれていた。 ☆一人ひとりと保育者がゆっくり関わる事を大切に安心してできる環境を作るように心掛けた。活動面では、0,1,2歳合同だったり年齢別に行ったりとメリハリをつけた。特に戸外活動では2歳児だけで出かけた時は、ルールのある遊びを取り入れたり、より活発に動き回ったりする活動を多く行い発達過程に応じた体験ができるようにした。 ●送迎時やノートで連絡を密に取ることで、発達課題を共有したり、子どもの成長を共に伝え合い一緒に喜ぶことが出来た。2歳児においては保護者からの発信でお別れ会を行ったりと、十分に意思の疎通を取ることが出来ていた。</p>	<p>毎週金曜日に打ち合わせを行い、共通認識をもって子どもや保護者に対応できるように情報の共有を行った。次週の予定を話し合い職員の配置や分担を決め様々な活動が安全に楽しく行えるようにした。</p> <p>トイレトレーニングや身の回りのことでは担当の保育者が中心となり、子ども一人ひとりの対応の仕方を細かく話し合うことで子どもに合わせた対応ができた。</p> <p>連絡事項簿に家庭からの連絡事項や一人ひとりの健康状態、園での特記すべき情報や降園時に保護者に伝えてもらいたいことなどを記入して保育者間で共有した。</p>	<p>戸外活動で転園した児童のいる保育園と一緒にになるとお互いに声を掛け合い、在園時の様子を伝えたり、その後の成長や様子を聞いたり児童を通じて交流を図ることができた。</p> <p>店舗の中で飼われている犬を散歩で通る度に子どもたちが立ち止まって見ていたら、お店の方が犬を抱えてガラス越しに見せてくれるようになり子どもたちも楽しみにしている。</p> <p>公園では他園や近隣の方と接する機会が多く、挨拶をしたり触れ合ったりすることも多かった。</p> <p>消防署見学では消防車や救急車に乗せてもらったり、消火服を着させてもらうなどの体験が出来た。散歩で消防署の前を通る時には挨拶をしたり声をかけてもらったりと交流が続いている。</p>

この評価のつけ方：

主任による各職員への聞き取り